交換留学報告書

* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	髙橋 燈由	学年(渡航時)	3-4
派遣先大学	ライデン大学		
国・地域	オランダ		
派遣期間	2024 年 8 月 ～ 2025 年 7 月		

履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
Writing/Grammar 1A, Language Acquisition 1	オランダ語のライティングと文法
Reading/ Vocabulary 1A Language Acquisition 1	オランダ語の読みと単語
Speaking/Listening 1A Language Acquisition 1	オランダ語のスピーキングとリスニング
Dutch Painting 1400-1950: Introduction to the Art History of the Netherlands, Cultuurwetenschap 1	オランダ絵画
Culture and Society of the Netherlands; An inside View	オランダ文化
2 学期目	
履修科目	授業内容
Writing/Grammar 1B, Language Acquisition 1	オランダ語のライティングと文法
Reading/ Vocabulary 1B Language Acquisition 1	オランダ語の読みと単語
Speaking/Listening 1B Language Acquisition 1	オランダ語のスピーキングとリスニング

留学レポート(1,500 字以上)

私は、2024 年 9 月から 2025 年 6 月までの一年間ライデン大学に留学しました。

ライデン大学では、前期に 5 科目を、後期に 3 科目を履修しました。前期に履修したオランダ語の授業は、長崎大学生のほかに、中国・アメリカ・ドイツ・オーストラリア・ハンガリー・イラン・エジプトなど様々な国から異なるルーツを持つ学生とともに受講しました。

ライデン大学でのオランダ語の指導法はこれまでと非常に異なるものでした。また、学習量が多く、家での予習復習を徹底しなければついていくことができないほどでした。教科書 1 章分が終わるごとにテストが行われ、合格しなかった場合には再テストを受験しました。後期には、オランダ語の科目を 3 つ履修しました。前期と比べレベルがあがり、学習量も増えました。前期とは異なり、毎週単語テストが行われたり、ライティング課題があったりしました。オランダ語の授業を受け、良かったと感じる点は、オランダ語を話す機会がたくさんあったということです。レベルごとに分けられた少人数での授業であったため、2 人組になって質疑応答を練習したり、グループで自分の考えや経験を話したりしました。また、授業や休憩時間など先生とのやり取りもすべてオランダ語でした。自分で考えながらオランダ語を話す機会は日本にいる時にあまりなかったため、話す力がついたと実感しています。

前期にはオランダ語の授業以外に、オランダ絵画に関する科目とオランダ文化に関する科目の 2 科目を履修し

ました。

オランダ絵画に関する科目では、オランダ絵画の黄金期を中心に、レンブラントやフェルメール、ゴッホなど有名なオランダ人画家によって描かれた絵画について学びました。この科目で興味深かった点は、絵画に描かれている人物の服装や装飾品から背景にある物事やオランダの文化を学ぶことができたという点です。以前は絵画に関する知識が全くありませんでしたが、この科目を履修したことによって日本ではなかなか得ることのできない専門的な知識が身に付きました。

オランダ文化に関する授業では、オランダの歴史や、水に囲まれた暮らしを中心にオランダ文化について学びました。最終課題として、グループでオランダの一地域とその地域の水路に関する動画とポスターを作成し、プレゼンしました。私は台湾人の友人 2 人とグループになり、デン・ハーグの水路や海について調査しました。この科目では、オランダならではの学びを得ることができ、とても有意義でした。

学外での活動は 2 点行いました。

一点目は、アムステルダム日本語補習校でのボランティア活動です。アムステルダム日本語補習校では毎週土曜日にオランダで生まれ育った小学生から中学生までの日本人や日本にルーツを持つ子どもたちに日本式の授業が行われます。私は約半年間一か月に1，2回ほどボランティアに参加し、授業補助を行いました。この活動を通して、異文化理解が深まったと感じました。親が日本人であってもオランダで生まれ育った子どもたちにはこれまで接してきた子どもとは違う独自の価値観や意見があることが分かり、これまで感じていた当たり前が環境によって異なることを実感しました。

二点目は、キックボクシングジムで週に 2 回トレーニングをしたことです。私は1年次からキックボクシングを習っており、留学中にも練習したいと考えたため、ジムに通いました。

オランダはキックボクシングが盛んでオランダ出身の有名な選手もいます。女性がほぼいない状況で背の高い男性の練習に混ざっていたため、日本での練習と比べ厳しく感じました。しかし、これまで経験がない練習法を体験したり、ジムにいる人とのコミュニケーションを楽しんだりすることができました。

私にとってオランダでの約 1 年間の留学生活は、たくさん学びを得ることができる有意義なものでした。特に、私は異文化理解の難しさと大切さを学びました。自分と友人間での常識が異なっていたことが原因で衝突したことがありました。この経験を経て、今後異なる環境で生きてきた人と接する際には、互いの文化を伝え合い理解しようとすることが大切であると感じました。また、オランダが留学先でとてもよかったと感じました。オランダ語を日常的に学ぶことができたのはもちろんですが、多国籍の人々が住む環境で様々な文化を学んだり、今後の選択肢が増えたりしたからです。

留学中の写真（5 枚程度） ※写真のキャプションも入れること

Keukenhof

Koningsdag （国王誕生日）

オランダ名物 Appletaart

台湾人・韓国人の友人とのクリスマスパーティー

キックボクシングジム